

NEJM勉強会 2007 第6回 2007年5月23日実施 Bプリント 担当 大峰佳佐

Case 14-2007: A 59-Year-Old Man with Fever and Pain and Swelling of Both Eyes and the Right Ear. (Volume 356; 19)

【Problem list】

#1 発熱

入院 6 週前より発熱。当初より頭痛も伴う。入院時の体温は 38.2℃。入院 6 日目は 37.9℃。抗生物質による治療に対して軽快せず。

#2 両眼、右耳の発痛と腫脹

発熱後 1 週間経過した頃から、眼上部への痛みとともに水平複視が起こり、その後、左目に流涙を伴う発痛と腫脹、副鼻腔への圧迫感が起こった。次いで右耳、右目への発痛と腫脹も起こり、増悪の一途をたどる。結膜浮腫と眼瞼の腫脹も伴う。視力障害は見られなかった。やはり、抗生物質による治療に対して軽快せず。

#3 著明な体重減少

経過中に 9.1kg の体重減少があった。

#4 高血圧・狭心症

経過は不明。高血圧は lisinopril, atenolol によって、狭心症は isosorbide mononitrate によって治療されている。入院時血圧は、78/40 と著明な低血圧状態であったが、輸液により改善した。入院 6 日目の血圧は、127/78。

#5 VB12 欠乏傾向

毎月の B12 注射にて対処。

#6 結核患者への曝露

幼少期、家族に結核患者がいた。